

小浜町のバレイショ作付農家の産地振興に関する意向						
<p>[要約] 小浜町のバレイショ作付農家は、産地振興策として「流通販売対策」、「土づくりの推進」、「バレイショと組合せる新規品目の選定」、「そうか病対策」の順に重視している。今後のバレイショ作についての意向は、「現状維持」が過半を占めている。規模縮小の要因は労力不足が大きい。バレイショ作の所得目標は、600万円以上と100～200万円に二分化している。</p>						
総合農林試験場・経営部・経営科	専門	経営	対象	いも類	分類	指導
資料名：平成13年度九州沖縄農業試験研究成績・計画概要集（農業経営）						

#### [背景・ねらい]

近年、作付面積の減少が著しい主要特産畑作物であるバレイショについて、新輪間作体系技術導入の前提条件等を明らかにするため、産地の実態を調査する。

小浜町のバレイショ作付農家（島原雲仙農協北串支部191戸）を対象に、経営規模、労働力、作型等について、アンケート調査を実施した。有効回答は152戸（80%）であった。

なお、分析はバレイショ作の収入が経営の主体であるものを類型、バレイショ作の収入が従であるものを類型と区分して行った。また、類型をバレイショの経営規模で4区分した。

調査対象の北串支部は2001年度の部会員農家数が191戸、春バレイショ406ha、秋バレイショ171ha、出荷数量は春作4,190t、秋作2,720tである。

#### [成果の内容・特徴]

1. バレイショ産地の維持振興に必要な事項としては、上位4項目の制限にもかかわらず、17項目すべてに回答があり、広範な問題意識が認められる（表1）。
2. バレイショ産地の維持振興に必要な事項は、「流通販売対策の強化」、「土づくりの推進」、「バレイショと組合せる新規品目の選定」、「そうか病対策」の順でポイントが高く、これら4項目で全体の58%を占める（表1）。
3. バレイショ産地振興に関する経営主年代別の意向については、40代で「土づくりの推進」が他の世代よりポイントが低く、「流通販売対策の強化」が他の世代よりやや高い（データ省略）。
4. 今後のバレイショ作についての意向は、「現状維持」が過半55%を占めている。その他は「規模縮小」が29%、「拡大」が9%である。類型では経営規模（50～1ha）の「現状維持」と（2ha以上）の「拡大」の割合が高い。バレイショ作の規模縮小の要因として、類型と類型の経営規模（1～2ha）で「労力不足」の割合が高い（表2）。
5. バレイショ作の所得目標については、全体では、「600万円以上」と、「100～200万円」に分かれる。類型の所得目標は345万円と、類型の435万円より低い。また、類型の所得目標は経営規模が大きいほど高い（表3）。これは小規模経営ほど高齢化している現状と合致している（表4）。

#### [成果の活用面・留意点]

1. バレイショ産地の再編方策の参考に活用できる。

[ 具体的データ ]

表1 バレイショ産地振興に関する経営規模別農家の意向 (単位:ポイント,%)

区 分	類 型						全 体	
	(1ha以下)		(1~2ha)		(2ha以上)		ポイント	割合
	ポイント	割合	ポイント	割合	ポイント	割合		
流通販売対策の強化	26	9.3	62	18.7	54	19.4	189	12.6
土づくりの推進	52	18.6	50	15.1	46	16.5	185	16.4
バレイショと組合せる新規品目の選定	45	16.1	50	15.1	29	10.4	146	12.9
そうか病対策	32	11.5	38	11.4	30	10.8	130	11.5
農業後継者の確保	23	8.2	25	7.5	21	7.6	92	8.1
新しい栽培技術の導入	30	10.8	7	2.1	12	4.3	64	5.7
市場消費の情報収集	16	5.7	17	5.1	13	4.7	55	4.9
圃場整備等基盤整備	8	2.9	18	5.4	13	4.7	47	4.2
集出荷体制の充実強化	9	3.2	9	2.7	7	2.5	40	3.5
基本栽培技術の徹底	8	2.9	12	3.6	11	4.0	36	3.2
農協等の支援機関の充実強化	9	3.2	7	2.1	11	4.0	32	2.8
雇用労働力の確保	2	0.7	2	0.6	16	5.8	28	2.5
部会組織対策	4	1.4	8	2.4	6	2.2	22	2.0
環境に配慮した農業の推進	7	2.5	3	0.9	3	1.1	21	1.9
農作業の機械化の推進	6	2.2	11	3.3	0	0	19	1.7
マルチの処理	2	0.7	9	2.7	2	0.7	16	1.4
収穫作業の受委託の推進	0	0	4	1.2	4	1.4	8	0.7
合 計	279	100	332	100	278	100	1130	100

(注) 重要と考える順に4項目を選択し、ポイントは重要度に応じた配点(非常に重要4、とても重要3、やや重要2、重要1)を集計した。

表2 今後のバレイショ作についての経営規模別の意向別割合 (単位:%)

区 分	現状維持	規 模 縮 小			拡 大	わからない	作付中止	
		労力不足	他作目転換	貸地貸出				
類型 (%)	54	29	15	13	1	7	7	3
(50a以下)	44	34	12	22	0	0	22	0
(50~1ha)	75	25	10	5	10	0	0	0
(1~2ha)	47	33	24	9	0	6	12	2
(2ha以上)	37	27	12	15	0	24	0	12
類型 (%)	50	39	33	6	0	11	0	0
全 体 (%)	57	28	15	12	1	9	5	1

表3 バレイショ作の経営規模別の所得目標 (単位:%,万円)

区 分	50万円以下	50~100万円	100~200万円	200~300万円	300~400万円	400~500万円	500~600万円	600万円以上	所得目標(万円)
類型 (%)	5	8	24	12	11	9	8	23	345
(50a以下)	22	22	0	34	0	11	0	11	233
(50~1ha)	9	18	27	14	5	0	9	18	277
(1~2ha)	3	0	24	12	15	6	12	28	400
(2ha以上)	0	4	31	4	15	19	4	23	370
類型 (%)	11	6	6	6	0	22	22	27	435
全 体 (%)	6	8	20	12	11	10	10	23	355

表4 回答農家の経営主年齢 (単位:人,歳)

区 分	20代	30代	40代	50代	60~64歳	65歳以上	平均年齢
類 型	1	12	26	23	19	25	55.0
(50a以下)	0	1	2	3	3	4	58.4
(50~1ha)	0	0	6	6	3	11	60.0
(1~2ha)	0	4	8	7	9	6	55.1
(2ha以上)	1	7	10	7	4	4	49.6
類 型	0	1	6	7	1	3	53.5
全 体	1	13	34	30	20	32	55.3

[ その他 ]

研究課題名:九州・沖縄における地域特産畑作物産地活性化のための新しい持続的輪間作体系化技術の開発

予算区分:国庫1/2(新技術実用化)

研究期間:平成13年度(平成12~15年度)

研究担当者:岩坪友三郎、鳥羽由紀子

既発表論文等:なし